

環境物品等の調達を円滑にするための方針

国土交通省

国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成12年法律第100号。以下「法」という。）第7条第1項の規定に基づき、平成22年度における環境物品等の調達の推進を円滑にするための方針（以下「調達方針」という。）を定めたので、同条第3項の規定に基づき、公表する。

1. 特定調達物品等の平成22年度における調達の目標

平成22年度における個別の特定調達物品等（環境物品等の調達の推進に関する基本方針の変更（平成22年2月5日閣議決定。以下「基本方針」という。）に定める特定調達品目ごとに判断の基準を満たすものをいう。）の調達目標は、以下のとおりとする。

なお、基本方針に規定された判断の基準は、あくまでも調達の推進に当たっての一つの目安を示すものであり、できる限り環境への負荷の少ない物品等の調達に努めることとする。

1. 紙類（7品目）

【情報用紙】 コピー用紙 フォーム用紙 インクジェットカラープリンター 用塗工紙 【印刷用紙】 塗工されていない印刷 用紙 塗工されている印刷 用紙 【衛生用紙】 トイレットペーパー ティッシュペーパー	調達を実施する品目については、調達目標は100%とする。
--	------------------------------

2. 文具類（82品目）

シャープペンシル シャープペンシル替芯 ボールペン マーキングペン 鉛筆 スタンプ台 朱肉 印章セット 印箱 公印 ゴム印	調達を実施する品目については、調達目標は100%とする。
---	------------------------------

回転ゴム印
定規
トレー
消しゴム
ステープラー
ステープラー鉛筆ホルダー
連射式クリップ (本体)
事務用修正具 (テープ)
事務用修正具 (液状)
クラフトテープ
粘着テープ (布粘着)
両面粘着紙テープ
製本テープ
ブックスタンド
ペンスタンド
クリップケース
はさみ
マグネット (玉)
マグネット (バー)
テープカッター
パンチ (手動)
モルトケース (紙めくり用
スポンジケース)
紙めくりクリーム
鉛筆削 (手動)
OA クリーナー (ウェットタイプ)
OA クリーナー (液タイプ)
ダストブロワー
レターケース
メディアケース
マウスパッド
OA フィルター (枠あり)
丸刃式紙裁断機
カッターナイフ
カッティングマット
デスクマット
OHP フィルム
絵筆
絵の具
墨汁
のり (液状) (補充用
を含む。)
のり (澱粉のり) (補
充用を含む。)
のり (固形)

のり (テープ) ファイル バインダー ファイリング用品 アルバム つづりひも カードケース 事務用封筒 (紙製) 窓付き封筒 (紙製) けい紙 起案用紙 ノート パンチラベル タックラベル インデックス 付箋紙 付箋フィルム 黒板拭き ホワイトボード用レーザー 額縁 ごみ箱 リサイクルボックス 缶・ボトルつぶし機 (手動) 名札 (机上用) 名札 (衣服取付型・首下げ型) 鍵かけ (フックを含む) チョーク グラウンド用白線 梱包用バンド	
--	--

3. オフィス家具等 (10品目)

いす 机 棚 収納用什器 (棚以外) ローパーテーション コートハンガー 傘立て 掲示板 黒板 ホワイトボード	調達を実施する品目については、調達目標は100%とする。
--	------------------------------

4. OA機器 (18品目)

コピー機 複合機	調達を実施する品目については、調達目標は100%とする。
-------------	------------------------------

拡張性のあるデジタルコピー機 電子計算機 プリンタ プリンタ/ファクシミリ兼用機 ファクシミリ スキャナ 磁気ディスク装置 ディスプレイ シュレッダー デジタル印刷機 記録用メディア 一次電池又は小形充電式電池 電子式卓上計算機 トナーカートリッジ インクカートリッジ 掛時計	
---	--

5. 携帯電話（2品目）

携帯電話 PHS	調達を実施する品目については、調達目標は100%とする。
-------------	------------------------------

6. 家電製品（5品目）

電気冷蔵庫 電気冷凍庫 電気冷凍冷蔵庫 電気便座 電子レンジ	調達を実施する品目については、調達目標は100%とする。
--	------------------------------

7. エアコンディショナー等（3品目）

エアコンディショナー ガスヒートポンプ式冷暖房機 ストーブ	調達を実施する品目については、調達目標は100%とする。
-------------------------------------	------------------------------

8. 温水器等（4品目）

ヒートポンプ式電気給湯器 ガス温水機器 石油温水機器 ガス調理機器	調達を実施する品目については、調達目標は100%とする。
--	------------------------------

9. 照明（5品目）

蛍光灯照明器具 LED照明器具	調達を実施する品目については、調達目標は100%とする。
--------------------	------------------------------

LEDを光源とした 内照式表示灯 蛍光ランプ 電球形状のランプ
--

10. 自動車等（5品目）

10-（1）自動車

一般公用車(*1)	公用車利用の適正化に関する削減計画を踏まえつつ、必要なものについて低公害車(*1)のいずれかを調達（当初33台調達予定）。 この他、燃料電池自動車を1台継続リースする。
一般公用車以外の自動車	① 公用車利用の適正化に関する削減計画を踏まえつつ、必要なものについて低公害車(*1)のいずれかを調達（当初141台調達予定）。 ② ①を含め自動車の調達を実施する場合は、調達目標は100%とする。

*1 「基本方針」、「11. 自動車等」で定められているものをいう。

10-（2）ITS対応車載器

ETC対応車載器	公用車利用の適正化に関する大臣の指示を踏まえ、公用車の利用を見直したうえで、必要な公用車にかかるものについて調達（当初74個調達予定）。
カーナビゲーションシステム	公用車利用の適正化に関する大臣の指示を踏まえ、公用車の利用を見直したうえで、必要な公用車にかかるものについて調達（当初78個調達予定）。

10-（3）タイヤ等

乗用車用タイヤ 2サイクルエンジン油	調達を実施する品目については、調達目標は100%とする。
-----------------------	------------------------------

11. 消火器（1品目）

調達を実施する場合は、調達目標を100%とする。

12. 制服・作業服（3品目）

制服 作業服 帽子	調達を実施する品目については、調達目標は100%とする。
-----------------	------------------------------

13. インテリア・寝装寝具（10品目）

カーテン 布製ブラインド タフテッドカーペット タイルカーペット 織じゅうたん	調達を実施する品目については、調達目標は100%とする。
---	------------------------------

ニードルパンチカーペット 毛布 ふとん ベッドフレーム マットレス	
---	--

14. 作業手袋（1品目）

調達を実施する場合は、調達目標は100%とする。

15. その他の繊維製品（7品目）

集会用テント ブルーシート 防球ネット 旗 のぼり 幕 モップ	調達を実施する品目については、調達目標は100%とする。
---	------------------------------

16. 設備（6品目）

太陽光発電システム	管理庁舎用等電力として4箇所、71KW程度の設備を調達予定。
太陽熱利用システム	調達の予定はない。
燃料電池	調達の予定はない。
生ゴミ処理機	調達の予定はない。
節水機器	調達を実施する場合は、調達目標を100%とする
日射調整フィルム	2箇所、338㎡を調達予定

17. 防災備蓄用品（6品目）

ペットボトル飲料水 缶詰 アルファ化米 乾パン レトルト食品 （毛布） （作業手袋） （テント） （ブルーシート） （一次電池） 非常用携帯燃料	調達を実施する品目については、調達目標は100%とする。（毛布、作業手袋、テント、ブルーシート及び一次電池の5品目については、他の分野と重複）
--	---

18. 公共工事

公共工事については、事業ごとの特性、必要とされる強度や耐久性、機能の確保、コスト等に留意しつつ、平成22年度は、以下の資材、建設機械若しくは工法を使

用し、又は目的物を構築する公共工事の調達を積極的に推進する。

- ・建設汚泥から再生した処理土については、「建設汚泥処理土利用技術基準」(国官技第 50 号、国官総第 137 号、国営計第 41 号、平成 18 年 6 月 12 日)及び「建設汚泥の再生利用に関するガイドライン」(国官技第 46 号、国官総第 128 号、国営計第 36 号、国総事第 19 号、平成 18 年 6 月 12 日)に基づき、再資源化施設への距離、建設発生土の工事間利用、再生材の発生状況などを留意しつつ、埋戻し材、盛土材、裏込め材等において、その使用を推進する。
- ・土工用水砕スラグについては、供給状況に地域格差があることに留意しつつ、埋戻し材、盛土材、裏埋め材、埋立柱材、覆土材等において、その使用を推進する。なお、鉄鋼スラグの製造元及び販売元を把握できるものを調達する。
- ・銅スラグを用いたケーソン中詰め材については、供給状況に地域格差があることに留意しつつ、港湾工事におけるケーソンの中詰め材において、その使用を推進する。
- ・フェロニッケルスラグを用いたケーソン中詰め材については、供給状況に地域格差があることに留意しつつ、港湾工事におけるケーソンの中詰め材において、その使用を推進する。
- ・地盤改良用製鋼スラグについては、供給状況に地域格差があることに留意しつつ、港湾工事におけるサンドコンパクションパイルの地盤改良材において、その使用を推進する。なお、鉄鋼スラグの製造元及び販売元を把握できるものを調達する。
- ・高炉スラグ骨材については、供給状況に地域格差があることに留意しつつ、沿岸部におけるコンクリート構造物及び消波ブロック等のコンクリート製品において、その使用を推進する。なお、鉄鋼スラグの製造元及び販売元を把握できるものを調達する。
- ・フェロニッケルスラグ骨材については、供給状況に地域格差があることに留意しつつ、コンクリート単位体積重量が増加する特徴を考慮し、重力式擁壁などのコンクリート構造物で、その使用を推進する。
- ・銅スラグ骨材については、供給状況に地域格差があることに留意しつつ、コンクリート単位体積重量が増加する特徴を考慮し、重力式擁壁などのコンクリート構造物で、その使用を推進する。
- ・電気炉酸化スラグ骨材については、供給状況に地域格差があることに留意しつつ、コンクリート単位体積重量が増加する特徴を考慮し、重力式擁壁などのコンクリート構造物でその使用を推進する。なお、鉄鋼スラグの製造元及び販売元を把握できるものを調達する。
- ・再生加熱アスファルト混合物については、再資源化施設への距離、再生材の発生状況などに留意しつつ、重交通ではない道路や空港におけるアスファルト舗装の基層表層材料として、その使用を推進する。
- ・鉄鋼スラグ混入アスファルト混合物については、供給状況に地域格差があることに留意しつつ、その使用を推進する。なお、鉄鋼スラグの製造元及び販売元を把握できるものを調達する。
- ・中温化アスファルト混合物については、再生骨材を使用できない場合において、アスファルト舗装の表層・基層および加熱アスファルト安定処理路盤材料として、その使用を推進する。また、ポーラスアスファルトには使用しない。

- ・鉄鋼スラグ混入路盤材については、供給状況に地域格差があることに留意しつつ、その使用を推進する。なお、鉄鋼スラグの製造元及び販売元を把握できるものを調達する。
- ・再生骨材等については、再資源化施設への距離、再生材の発生状況などに留意しつつ、構造物の基礎砕石などの高強度を必要としない部位や路盤などにおいて、積極的にその使用を推進する。
- ・間伐材については、供給状況に地域格差があることに留意しつつ、河川工事における木材を使用する多自然型護岸工、砂防工事における山腹工、公園工事・港湾植栽工事・道路植栽工事における植栽支柱などで、高強度を必要としない場合などに、その使用を推進する。
- ・高炉セメントについては、供給状況に地域格差があることに留意しつつ、河川工事における護岸基礎、道路工事における橋梁下部工、港湾工事や海岸工事における消波ブロック、空港工事における舗装など、早期強度を必要としない場合に、その使用を推進する。
- ・フライアッシュセメントについては、供給状況に地域格差があることに留意しつつ、ダム本體工などのマスコンクリートで、早期強度を必要としない場合に、その使用を推進する。
- ・エコセメントについては、供給状況に地域格差があることに留意しつつ、側溝などの高強度を必要としないコンクリート構造物及びコンクリート製品において、その使用を推進する。
- ・透水性コンクリートについては、公園工事における園内舗装など、建築工事における構内舗装等高強度を必要としない部位において、また、側溝、集水桝等の水路に使用するコンクリート製品において、その使用を推進する。
- ・鉄鋼スラグブロックについては、供給状況に地域格差があることに留意しつつ、港湾工事において、重量が35t以下の消波ブロック、被覆ブロック及び根固めブロック等のコンクリートブロック（無筋）並びに人工石材、ボックスカルバート及び排水溝等のコンクリート製品（無筋）で、その使用を推進する。なお、鉄鋼スラグの製造元及び販売元を把握できるものを調達する。
- ・フライアッシュを用いた吹付けコンクリートについては、供給状況に地域格差があることに留意しつつ、道路トンネル工事及び道路や河川などの法面保護工における吹付けコンクリートにおいて、その使用を推進する。
- ・下塗用塗料（重防食）については、河川・ダム・港湾工事における機械設備、鋼管・鋼矢板等の鋼材、道路工事等における鋼構造物等などに重防食下塗用塗料として、その使用を推進する。
- ・低揮発性有機溶剤型の路面標示用水性塗料については、車道中央線等の区画線において、その使用を推進する。
- ・高日射反射率塗料については、人工の地表面の割合の大きい都市化の進んだ地域において、その使用を推進する。
- ・高日射反射率防水については、人工の地表面の割合の大きい都市化の進んだ地域において、その使用を推進する。
- ・再生材料を用いた舗装用ブロック（焼成）については、道路・公園工事及び建築工事における外構等の歩行者用舗装において、その使用を推進する。なお、材料の選定にあたっては、「土壌の汚染に係る環境基準」（平成3年8月23日環境庁告

示第 46 号) 等に基づき、有害物質の含有及び溶出に問題がないものとする。

- ・再生材料を用いた舗装用ブロック類（プレキャスト無筋コンクリート製品）については、道路・公園工事及び建築工事における外構等の歩行者用舗装において、その使用を推進する。なお、材料の選定にあたっては、「土壌の汚染に係る環境基準」（平成 3 年 8 月 23 日環境庁告示第 46 号）等に基づき、有害物質の含有及び溶出に問題がないものとする。
- ・パークたい肥については、施工箇所の土壌及び植栽する植物の性質に留意しつつ、公園、緑地などにおける植栽や緑化などの工事で、その使用を推進する。
- ・下水汚泥を用いた汚泥発酵肥料（土壌改良資材も含む）については、施工箇所の土壌及び植栽する植物の性質に留意しつつ、公園、緑地などにおける植栽や緑化などの工事で、その使用を推進する。
- ・環境配慮型道路照明については、設置箇所に求められている光色や演色性にも配慮しつつ、その使用を推進する。
- ・再生プラスチック製中央分離帯ブロックについては、撤去後に回収して再生利用するシステムが構築されていることを確認した上で、高速道路等の路面にボルト付けするプラスチック製中央分離帯ブロックにおいて、その使用を推進する。
- ・陶磁器質タイルについては、建築工事における床仕上げなどで、その使用を推進する。
- ・断熱サッシ・ドアについては、気温条件等が厳しい場所に建設される庁舎の建築工事で、高い断熱性能が要求される開口部などで、その使用を推進する。
- ・製材、集成材、合板、単板積層材については、使用部位及び樹種の機能的特性に留意しつつ、建築工事においてその使用を推進する。
- ・フローリングについては、建築工事における床仕上げなどで、その使用を推進する。
- ・パーティクルボードについては、建築工事における内装材などで、その使用を推進する。
- ・繊維板については、建築工事における内外装材などで、その使用を推進する。
- ・木質系セメント板については、建築工事における内装材などで、その使用を推進する。
- ・ビニル系床材については、建築工事における床仕上げなどで、その使用を促進する。
- ・断熱材については、建築工事における内外装材などで、材料の特性に配慮するとともに、オゾン層を破壊する物質が使用されていないもの及びハイドロフルオロカーボンが使用されていないものの使用を推進する。
- ・照明制御システムについては、建築設備工事における事務室の照明など常時使用される室等で、その使用を推進する。
- ・変圧器については、運用時の負荷率の実態に留意しつつ、建築設備工事において、その使用を推進する。
- ・吸収冷温水機については、建築設備工事において、施設ごとの特性に応じた空調方式に留意しつつ、その使用を推進する。
- ・氷蓄熱式空調機器については、建築設備工事において、施設ごとの特性に応じた空調方式に留意しつつ、その使用を推進する。
- ・ガスエンジンヒートポンプ式空気調和機については、建築設備工事において、施

- 設毎の特性に応じた空調方式に留意しつつ、その使用を推進する。
- ・送風機については、建築設備工事において、適用範囲に留意しつつその使用を推進する。
 - ・ポンプについては、建築設備工事において、適用範囲に留意しつつその使用を推進する。
 - ・排水・通気用再生硬質ポリ塩化ビニル管については、建築設備工事において、建物の排水及び通気用に塩化ビニル管を用いる場合は、供給状況に地域格差があること及び、使用部位、機能的特性に留意しつつその使用を推進する。
 - ・自動水栓については、建築設備工事における不特定多数の使用する洗面など使用頻度の高い箇所で、その使用を推進する。
 - ・自動洗浄装置及びその組み込み小便器については、建築設備工事における不特定多数の使用する便所など使用頻度の高い箇所で、その使用を推進する。
 - ・洋風便器については、建築設備工事における不特定多数の使用する便所など使用頻度の高い箇所で、その使用を推進する。
 - ・再生材料を使用した型枠については、供給状況に地域格差があることに留意しつつ、合板型枠又は鋼製型枠以外を用いる場合で、側溝、重力式擁壁、排水ます等の小構造物において、その使用を推進する。
 - ・排出ガス対策型建設機械については、「建設機械に関する技術指針」（平成3年10月8日付建設省経機発第247号）に従い、その使用を推進する。
 - ・低騒音型建設機械については、「建設工事に伴う騒音振動対策技術指針」（昭和51年3月2日付建設省経機発54号）に従い、騒音、振動を防止することにより住民の生活環境を保全する必要があると認められる区域において、その使用を推進する。
 - ・低品質土有効利用工法については、粘性土等の低品質土が発生する現場において、現場内で土質改良や施工上の工夫を行うことにより、再利用できる工種等がある工事において、その使用を推進する。なお、土質改良等については、「発生土利用基準について」（国官技第112号、国官総第309号、国営計第59号、平成18年8月10日）に基づき、品質の確保に留意する。
 - ・建設汚泥再生処理工法については、建設汚泥が発生する現場または他の現場において、建設汚泥を再生した処理土が利用できる工種がある場合に再生処理設備の設置場所、稼働時の騒音及び振動等に留意しつつ、その使用を推進する。なお、再生処理土については、「建設汚泥処理土利用技術基準」（国官技第50号、国官総第137号、国営計第41号、平成18年6月12日）及び「建設汚泥の再生利用に関するガイドライン」（国官技第46号、国官総第128号、国営計第36号、国総事第19号、平成18年6月12日）、流動化処理土については「流動化処理土利用技術マニュアル」（建設省土木研究所編、平成9年12月）に基づき、品質の確保に留意する。
 - ・コンクリート塊再生処理工法については、コンクリート塊の発生する現場において、現場内再生処理設備の設置場所、稼働時の騒音及び振動等に留意しつつ、コンクリート用再生骨材、路盤材および埋め戻し材・裏込め材として現場内利用できる工種等がある工事において、その使用を推進する。なお、コンクリート用再生骨材として使用する場合は、JIS A 5021（コンクリート用再生骨材H、平成17年3月20日）、JIS A 5023（再生骨材Lを用いたコンクリート、平成18年3月25日）、JIS A 5022（再生骨材Mを用いたコンクリート、平成19年3月20日）に基づき、品質の確保に留意する。

- ・路上再生路盤工法については、アスファルト混合物の層の厚さが 10cm 以下の道路の路盤を補修する場合に、その使用を推進する。
- ・伐採材又は建設発生土を活用した法面緑化工法については、道路等の切土法面や盛土法面において、その使用を推進する。
- ・泥土低減型ソイルセメント柱列壁工法については、建築工事の仮設工事の山留工事としてソイルセメント柱列壁工法を採用する場合に、その使用を推進する。
- ・排水性舗装については、道路交通騒音を減少させる必要がある道路において、その使用を推進する。
- ・透水性舗装については、雨水を道路の路床に浸透させる必要のある歩行者道等の自動車交通がない道路において、その使用を推進する。
- ・屋上緑化については、荷重の増大による構造体への影響に留意しつつ、建物の屋上などでの整備を推進する。

[調達の目標]

建設汚泥から発生した処理土	調達を実施する品目については、調達目標は40%とする。
土工用水砕スラグ	
銅スラグを用いたケーソン中詰め材	
フェロニッケルスラグを用いたケーソン中詰め材	
高炉スラグ骨材	調達を実施する品目については、調達目標は70%とする。
フェロニッケルスラグ骨材	
銅スラグ骨材	
電気炉酸化スラグ骨材	
再生加熱アスファルト混合物	調達を実施する品目については、調達目標は100%とする。
鉄鋼スラグ混入アスファルト混合物	
鉄鋼スラグ混入路盤材	調達を実施する品目については、調達目標は100%とする。
再生骨材等	
高炉セメント	調達を実施する品目については、調達目標は100%とする。
フライアッシュセメント	
生コンクリート（高炉）	調達を実施する品目については、調達目標は100%とする。
生コンクリート（フライアッシュ）	
フライアッシュを用いた吹き付けコンクリート	調達を実施する品目については、調達目標は80%とする。
下塗用塗料（重防食）	調達を実施する品目については、調達目標は100%とする。
低揮発性有機溶剤型の路面標示用水性塗料	調達を実施する品目については、調達目標は100%とする。
再生材料を用いた舗装用ブロック（焼成）	調達を実施する品目については、調達目標は100%とする。
再生材料を用いた舗装用ブロック	調達を実施する品目については、調達目標は100%とする。

類 (プレキャスト無筋コンクリート製品)	
パークたい肥	調達を実施する品目については、調達目標は100%とする。
下水汚泥を用いた汚泥発酵肥料 (下水汚泥コンポスト)	
環境配慮型道路照明	調達を実施する品目については、調達目標は100%とする。
陶磁器質タイル	調達を実施する品目については、調達目標は100%とする。
パーティクルボード	調達を実施する品目については、調達目標は100%とする。
繊維版	調達を実施する品目については、調達目標は100%とする。
木質系セメント板	調達を実施する品目については、調達目標は100%とする。
ビニル系床材	調達を実施する品目については、調達目標は100%とする。
照明制御システム	調達を実施する品目については、調達目標は100%とする。
変圧器	調達を実施する品目については、調達目標は100%とする。
吸収冷温水機	調達を実施する品目については、調達目標は100%とする。
氷蓄熱式空調機器	調達を実施する品目については、調達目標は100%とする。
ガスエンジンヒートポンプ式空気調和機	調達を実施する品目については、調達目標は100%とする。
排水・通気用再生硬質ポリ塩化ビニル管	調達を実施する品目については、調達目標は100%とする。
自動水栓	調達を実施する品目については、調達目標は100%とする。
自動洗浄装置及びその組み込み小便器	調達を実施する品目については、調達目標は100%とする。
洋風便器	調達を実施する品目については、調達目標は100%とする。
排出ガス対策型建設機械	調達を実施する品目については、調達目標は100%とする。
低騒音型建設機械	調達を実施する品目については、調達目標は100%とする。

19. 役務 (15品目)

省エネルギー診断	1箇所を実施予定。
印刷	調達を実施する場合は、調達目標は100%とする。
食堂	4箇所を調達予定。
自動車専用タイヤ更生	自動車整備等の際に9件調達予定。
自動車整備	調達を実施する場合は、調達目標は100%とする。
庁舎管理 植栽管理 清掃 機密文書処理 害虫防除	調達を実施する品目については、調達目標は100%とする。
輸配送	調達を実施する場合は、調達目標は100%とする。
旅客輸送	調達を実施する場合は、調達目標は100%とする。
照明機能提供業務	調達の予定はない。
庁舎等において営業を行う小売業務	6件を調達予定。
クリーニング	調達を実施する場合は、調達目標は100%とする。

II. 特定調達物品等以外の平成22年度に調達を推進する環境物品等及びその調達目標

1. 腕章を調達する場合には、制服・作業服の調達目標に準じて調達する。
2. OA機器、家電製品の調達に際しては、より消費電力が小さく、かつ、再生材料を多く使用しているものを選択する。
3. 上記のほか、環境物品等の調達に当たっては、できる限り環境への負荷の少ない物品等の調達に努める。

III. その他環境物品等の調達の推進に関する事項

1. 省内にグリーン調達のための連絡会議を設けることとし、体制の概要は、別紙のとおりとする。
2. 本調達方針は、全ての部局を対象とする。
3. 調達の実績については、毎年度各品目ごとに取りまとめ、公表する。
4. 機器類等については、できる限り修理等を行い、長期間の使用に努める。
5. 各調達機関は、調達する品目に応じて、既存の情報を活用することにより、判断基準を満たすことにとどまらず、できる限り環境負荷の少ない物品の調達に努める。
6. 物品を納入する事業者に対して、新規に自動車を購入する場合には基本方針で定められた自動車を購入するよう働きかける。
7. 公共工事の環境負荷低減施策省内連絡会では、法に関する事項を含め、公共工事の環境負荷低減に関する事項について検討する。また、これらの検討に際しては、学識委員会を設置し、公共工事の環境負荷低減施策の方針全般に関する提言・助言を頂きつつ進めることとする。
8. 下記の事項については、モデル工事等を通じて今後の本格的な調達の可能性について検討する。
 - ・ ISO14001に沿った環境マネジメントシステムを構築し、運用するモデル工事を実施して、その効果や課題を把握する。
9. 国土交通省は、平成16年6月に「国土交通省環境行動計画」を策定し、環境貢献型の経営（グリーン経営）を促進することなどにより、国土交通行政のグリーン化を目指しているところである。
10. 昨今の地球温暖化対策の重要性にかんがみ、京都議定書目標達成計画（平成17年4月28日閣議決定）の確実な実施に資するため、環境物品等を率先的に調達する。
11. 工事から発生する廃棄物の運搬車両から発生する二酸化炭素の削減を図るため、運搬ルートの設定等に配慮するよう努める。

国土交通省グリーン調達推進体制

官房長・総合政策局長

○ 特定調達品目の環境負荷低減省内連絡会

座長：官房会計課長
 (副) 総合政策局環境政策課長
 官房参事官(会計担当)
 〃 秘書室長
 総合政策局総務課長
 国土計画局総務課長
 土地・水資源局総務課長
 都市・地域整備局総務課長
 河川局総務課長
 道路局総務課長
 住宅局総務課長
 鉄道局総務課長
 自動車交通局総務課長
 海事局総務課長
 港湾局総務課長
 航空局監理部予算・管財室長
 北海道局予算課長
 海難審判所総務課長
 観光庁総務課長
 気象庁経理管理官
 運輸安全委員会事務局総務課
 会計室長
 海上保安庁主計管理官

○ 公共工事の環境負荷低減施策省内連絡会

座長：官房技術調査課長
 〃 公共事業調査室長
 総合政策局環境政策課長
 官房地方課長
 〃 官庁営繕部計画課長
 〃 〃 整備課長
 〃 〃 設備・環境課長
 総合政策局事業総括調整官
 〃 建設施工企画課長
 都市・地域整備局街路交通施策課長
 〃 公園緑地・景観課長
 〃 下水道部下水道事業課長
 河川局河川環境課長
 〃 治水課長
 〃 砂防部保全課長
 道路局国道・防災課長
 〃 地方道・環境課長
 住宅局住宅総合整備課長
 〃 住宅生産課長
 港湾局技術企画課長
 〃 国際・環境課長
 航空局空港部技術企画課長
 北海道局参事官
 海上保安庁交通部整備課長
 関東地方整備局企画部長

事務局

官房会計課
 総合政策局環境政策課

各局調達担当課長補佐等

地方支分部局等

事務局

官房技術調査課
 〃 公共事業調査室
 総合政策局環境政策課